

上田産「ブランド繭」の育成のための養蚕振興

取組に至る背景・事業の目的

かつては養蚕業で栄えた蚕都上田であるが、現在、上田市の養蚕農家は皆無となっており、全国的にも知名度の高い上田紬は、海外の輸入生糸で織られている状況である。地域の伝統文化を継承・発展させるためには、上田での養蚕による「ブランド繭」を育成し、ブランド力のある純上田産の絹製品を製作していく必要がある。

事業内容

平成 25 年度事業では、遊休荒廃農地を桑園として整備するとともに蚕室、蚕具等の整備を行い、平成 26 年度事業では、特殊生糸繰糸機を整備し、緯糸として用いる紬糸を安定的に製造する体制を整えた。

平成 27 年度事業においては、一貫生産体制を更に進めるために、「撚糸機」を整備し、生糸を複数本撚り合わせて実用的な糸とする撚糸を行う体制が整った。このことにより、様々な特徴と風合いを持つ上田紬を製作することができるようになった。



【撚糸機による生糸の撚糸】

事業効果

平成 27 年度の事業では、春蚕期と秋蚕期の 2 回で約 8 万頭の蚕を飼育し、約 70kg の生繭から約 15kg の純上田産生糸を採取することができた。

この生糸から手織機により「新繭・上田縞」の着尺（きもの 3 反を製作するとともに、動力機による上田紬 5 反の製作に取り組んだ。（平成 28 年 3 月現在）

また、桑の植栽、繰糸作業、機織り等の各工程を障害福祉サービス事業所の就労移行支援・就労継続支援 B 型施設「和裁舎」と連携しながら、福祉事業の就労支援活動の場とすることで、障がい者等の雇用創出につなげることができた。

3 年間の取組みにより、ブランド繭の育成から反物の製造まで一貫した純上田産絹製品の生産体制を整えることができた。



【手織機新作きもの】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「日本の絹」は染付き、つや、しなやかさ等に対する評価が高く、今後のニーズが期待される。

今後、更に純上田産絹製品の一貫した生産体制を推進し、安定的・継続的に地場産業の育成に取り組むとともに、上田市から全国へ、将来的には海外へ向けて発信していきたい。

また、上田の養蚕文化の発信拠点として周囲の景観も含めた整備を推進し、上田市の新たな観光スポットとして発信していきたい。

【選定のポイント】
純上田産絹製品の生産体制を整備し、純上田産の「新繭・上田紬」の反物を製作することができた。今後、純上田産絹製品のブランド力向上と商品化の推進が期待される。

団体名	特定非営利活動法人 和遊学舎（上田市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	上田市小牧 1206-4 TEL 0268-26-8833	事業費	3, 240, 000円
		支援金額	2, 160, 000円